浜郷小だより

茅ヶ崎市立浜之郷小学校
２０２４年１月９日
１月号
校長　安倍　武雄

学校教育目標　　～支えあう・聴きあう・学びあう～

子どもたちが自分を再発見し、友だちを再発見し、学ぶことの価値と意味を再発見して「人生最高の６年間」を生み出す学校、そして、その営みを通して教師も親もともに育ちあう学びの共同体としての学校でありたい。

2024年もどうぞよろしくお願いいたします

保護者の皆様、地域の皆様、令和６（２０２４）年の新しい年を迎えられましたこと、お慶び申し上げます。職員一同、子どもたちはもちろんのことそれぞれのご家庭、地域の皆様のご多幸を心よりお祈り申し上げます。

冬休み明けの朝会では、子どもたちに「言葉」について、お話ししました。

「昔の日本の人たちは、私たちが話す言葉自体に魂が宿っていると信じていました。これを「言霊（ことだま）」と言います。言葉には魂が宿っているので、その力が働いて、よい意味の言葉を発すればよいことが起こり、悪い意味の言葉を発すれば悪いことが起こると信じていたのです。だから、めでたい言葉をいろいろな場面で声に出すことで幸せを呼び寄せようとしました。たとえば、節分の日に豆をまきながら「鬼は外、福は内」と声に出して願うのがそうです。「明日天気になーれ」と靴を飛ばしながら声に出すのも同じです。ほかにも、結婚式では「終わり」を「お開き」とおめでたい言葉に変えてしまいますし、「するめ」を「あたりめ」と言ったり、「ひげを剃る」を「ひげをあたる」（「する」とは「なくなる」という意味です。）と言ってマイナスの言葉をわざとプラスの言葉にしたりします。

逆に、悪い言葉で悪いことを呼び寄せてしまわないように、お葬式では「また」とか「再び」という言葉を使いませんし、受験生に「落ちる」「滑る」という言葉は使いません。悪い言葉の魂のせいで、本当にそうなってしまったら困ってしまうからです。

みなさんの日常の言葉には、こんな損をするような言葉がありませんか。「私なんてどうせダメ…」「絶対失敗する」など自分を信じない言葉や、「死ね、消えろ、キモい、ウザい」などなどの友達を攻撃する言葉、下ネタなど周囲を不快にする言葉など、自分から不幸を呼び寄せているとしか思えない言葉が聞こえてくることがあります。言葉に魂があるのかないのかは別として、それを聞いている人たちが「嫌な気分」になるのは困ったものです。

では、どんな言葉が幸せを呼ぶのでしょう。たとえば、「私ならできる」「楽しい」「幸せ」「大丈夫」「大好き」「喜び」「笑顔」「ありがとう」「嬉しい」…いくらでも思い出すことができるでしょう。２０２４年はこんな言葉がいっぱいの浜之郷小学校にしていきましょう。」

それぞれのご家庭でも、子どもたちの「言葉」に耳を澄ませてみてください。そして、私たち「大人の言葉」もまた、もう一度考えていく必要があるのかもしれません。自戒を込めて。

１２月まではそれでもまだ我慢ができる寒さでしたが、これからはもっともっと寒くなることが予想されます。子どもたちのあいさつもしぼみがちです。ぜひご家庭でも今一度、あいさつの意味を話し合ってみてください。そして、もう一つのお願いです。手袋、帽子をご用意いただければと思います。上着のフードを目深にかぶり、ポケットに手を突っ込んで歩いている子どもたちを数多く見かけます。視界が狭まること、万が一転んだ際に手が出ないことなどから、子どもたちの様子を見ていてとても心配になります。どうぞ、ご協力ください。